



ありむら たかひろ
住宅事業部営業 本部長 有村 隆広

2000年（平成12年）1月、株式会社トータルハウジングに入社した有村隆広。長きにわたって経験を積み、営業部の本部長まで上り詰めた有村は、様々な苦勞を乗り越え、強くたくましく成長してきた。その軌跡はどのようなものか。

未経験で建築の世界へ

有村は29歳で10年間務めた会社を辞め、宅地建物取引士と二級建築士の資格を取って住宅建築の世界に踏み込んだ。前職では肉体労働の大変さと、体力的にも長く続けられるかが不安となり新たな職を探したところ、不動産関係に行きついたのだった。「何か将来的に資格があった方がいいだろう」と考えて建築の勉強をはじめ、宅建に興味を持つように。そうして、不動産に付随する住宅建築にも意識が向くようになったのである。

入社当初は未経験の職種だったことから、即戦力にはなれなかった。すぐに仕事を覚えられず、それが辛かったという。先輩のもとで手伝いをしながら学ぶも、サポート業務が主だったため、活躍しているという実感はなかった。自分は会社の為に貢献出来ているのか。一時は息苦しさを覚えたものの、地道に経験を積んでとにかく辛抱することに専念。1年経って、ようやく自分の現場を持つようになる。

『辛抱して学んできたことを、いよいよ活かすことができ』とやる気がみなぎり、ようやく一人前の仕事が出来る喜びを感じましたね。そうして試練を乗り越えた先で、新たな一歩を進み始めたのである。

工務課時代の苦勞

現在、営業本部長として管理職を勤めているが、入社当初は工務課に配属されていた。6年間勤務した後、自ら志願して営業部へ異動。「もっといろんな仕事をできるようにしたい。自分の能力を上げていきたい」という意思のもとだ。そんな有村が忘れられない工務課時代のエピソードがある。



当時、トータルハウジングは

建築資材の主流として、海外製品を使用していた。ある日、お客様から雨漏りに関する連絡が来た。窓枠の雨漏りという状況から、海外製のサッシが原因だとすぐに判明。家を建てて3か月経たずしてそのような事態となり、お客様に多大な迷惑をかけてしまっただけでなく、修繕にも労力を強いられた。結果的にかなり大がかりな作業となり、精神的に追い詰められた有村は「辞めたい」と考えるように。しかし、この件を噂で聞きつけた他のお客様から言われた一言が、その気持ちを大きく変えたのだった。

「私の家を建てるまでは、辞めないでね。」

我に返り、再びやる気を取り戻した有村。「周りに迷惑をかける事もあったけど必要と思ってもらえた事がうれしかった」と、当時を振り返る。

営業部での新たな試練

工務課から営業部に異動した有村は、新しい環境で再び苦勞を味わうこととなる。営業に関して「大丈夫だろう」と軽く考えていたところがあったのだが、いざやってみると難しく、なかなかうまく話すことができなかった。特に、モデルハウスや新築発表会のお客様と対話したとき、次のアポイントを取ることは難航したという。

初回はお客様も魅力を感じにくく、こちらが「次回もう一度お話しさせてください」と言っても、断られてしまうことが多い。次の約束を取ることが最も重要なのだが、最初はそのが困難を極めた。そこで、知識の少なさとお客様の心に訴える営業トークの未熟さを改善するべく、猛勉強に励んだ。すると、会話の中でお客様の希望

がだんだんわかるようになり、「経験を重ねることで技術が身についてくるのだ」と改めて実感したのだった。

理想の未来を目指して

今後は、営業本部長として人材育成を目標に挙げている。一緒に仕事をする仲間との絆を大切に、技術面でも共に成長していきたいと願う。この先も長く勤めることができ、安心して仕事に没頭できる環境。有村はこうした居心地の良い職場環境をつくりていきたいと思っているのである。

「これまで様々な経験をしてきたからこそ大切なものに気づき、的確な目標を立てることができるのではないだろうか。」

困難を乗り越えて、成長を掴み取る。そうして、会社の発展に尽力している有村。今後の活躍を期待せずにはられない。

表紙掲載者

へのメッセージ

～有村さん編～



株式会社孝匠
部長
中村 友昭さん

有村さんとの関係

私が入社してからの関係ですので、13年程の付き合いになります。以前トータルハウジングに在籍していた時は有村さんが上司で、私が部下でした。

有村さんの尊敬できるところ

ご自身の考えやスタンスが全くぶれないところです。会社中枢の上級役職者であり、様々な判断を下さなければならぬと思います。もちろん柔軟に対応すべきところは柔軟に対応されていますが、核となる、一番大事にしないといけない部分は今も昔もぶれていないところが素晴らしいと思います。

有村さんとの関係

有村さんは、私の上司になります。いつもご指導くださりありがとうございます。

有村さんの尊敬できるところ

若い人が多い我社ですが、そんな中でも積極的にコミュニケーションを取ろうという姿勢が素晴らしいと思います。年齢の垣根をこえて、接してくれるので、いつも明るい雰囲気の仕事ができています。



住宅事業部
営業 主任
六笠 有紀さん



有村さんとの関係

有村さんの部下にあたります。いつも様々なご指導いただいております。とても感謝しております。

有村さんの尊敬できるところ

住宅事業部の本部長業務だけではなく、本社と鹿屋支店の管理もされているところです。他部署の方とのやり取りを見て、正確で的確な報告と、確認事項の大切さを学ばせていただいております。些細な相談に対しても応えてくださるので、色々質問をさせていただきます。また、一言で終わらせず、こちらの意見も聞いたうえでアドバイスをくださるので自身で考える力を養うことができました。



住宅事業部
営業事務
下岩 こずえさん

今回表紙を飾られた有村様へ、ご関係の近い方からメッセージをいただきました。



有村さんはあなたにとってどんな存在ですか？

私が入社後配属された支店の先輩社員でした。その後は私の直属の上司になりました。様々な場面で助力をしていただき、また、いろいろなところでバックアップをして頂き、とても感謝しています。

有村さんへのメッセージ

二人のお子さんも大きくなって、子離れする時期かと思えます。ご家族を大事にしながら、今後の人生を楽しく・穏やかに歩んで行きましょう。また、お互いに年も重ねてきましたので、身体をいたわりながら健康第一で過ごしましょう。

有村さんはあなたにとってどんな存在ですか？

私はトラブルが発生してしまうとウジウジ悩んでしまう方ですが、有村さんはそこから引っ張ってくれる存在です。10年位トータルハウジングにありますが、やはり大変な仕事な故、落ち込む事も多いです。そんな中でも温かく見守って、私の意見を尊重してくれます。事務から営業に異動になった際も、不安でいっぱいだったのですが、「とりあえず1年やってみたら？」と背中を押してくださり、今に至ります。本当に感謝しています。

有村さんへのメッセージ

どんなに感謝してもきれません。今後たくさん支えてもらえる事を期待しています！笑 自分に厳しい有村さんの背中をみて、私も走り続けたいと思います。いつまでもみんなの憧れの存在でいてください。これからもよろしく願いいたします。

有村さんはあなたにとってどんな存在ですか？

温かくも厳しく指導して下さる上司です。判断に迷った時も、相談事に対して的確にアドバイスをさせていただきます。そんな有村さんのおかげで、私達も安心して業務に取り組みできております。

有村さんへのメッセージ

鹿屋支店の事務所移転 OPENの際は尽力して下さりありがとうございました。業務を任せて頂けるよう頑張りますので今後ともよろしくお願い致します。本社(西陵)⇔鹿屋支店は短い移動距離ではないので、運転はくれぐれもお気を付けてください。

記念すべき第一回は鹿屋支店をご紹介します。巻頭インタビューに登場した有村さんを筆頭に、素敵なメンツが揃っています！

Q&A

鹿屋支店
編

注目の支店紹介！



お話を聞いた人 下岩 こずえさん

Q メンバー構成を教えてください！

A 全9名で構成されています。エネルギーで若々しく、仕事の早いメンバーが揃っています。

【住宅事業部】	
営業	本部長 有村 隆広
	池崎 友晴
営業事務	横尾 毅
	下岩 こずえ
	西尾 亜由美
下入佐 拓海	

【建設事業部】	
デザイン設計	主任 山口 徹也
工務	田原 航
	古賀 世龍



Q 業務内容を教えてください。

A 主に下記業務を行っています。建設業、一級建築士設計事務所、宅地建物取引業

Q 現在注力している取り組みを教えてください。

A チームワークの強化に注力しています。モットーとしている事柄は以下です！

- ・明確な目標を共有し、同じ方向に向かって仕事に取り組む。
- ・頼り合うのではなく、まずそれぞれに与えられた役割をそれぞれが全力で果たす。

Q 皆様へメッセージをお願いします！

A 2012年にOPENした鹿屋支店ですが、2020年9月20日に新店舗へ移転OPENしました！併設のモデルハウスもございますので皆様お気軽にお越しください。



Q 注目スタッフを教えてください。

A デザイン設計 山口主任
鹿屋支店に一番長く在籍するスタッフです。元々工務スタッフなので大隅半島で建築していただいたお客様との関係も深く、今でも『山口さんは？』『山口さんをお願いします。』とお客様からご連絡があります！長年の経験を生かしたアドバイスで安心のご提案とともに、お客様のご要望にお応えいたします！

Q 今後の目標をお願いいたします！

A 2012年にOPENした鹿屋支店ですが、おかげさまで大隅半島でもだんだん認知度が高まってきていると実感しております。大隅半島でのシェア率No.1を目標に精進して参りますので今後ともよろしくお願いいたします！

